

ハチの行動半径

三木 順一

巣をもっている動物は、獣であれ、鳥であれ、幼い命の為に、餌を集めるのに、どの位巣から遠くに行動するか、まとまった研究報告を勉強不足であって知らない。

昆虫ではミツバチがよく調べられていて、ノーベル賞を貰ったドイツのフリッシュ博士や、日本の桑原万壽太郎博士の研究で、大体2,000m位というのが知られている。経済的行動半径は500m~1,500mでこの辺が最も多い。平原で気温の高い時は4,000mの記録もある。私の場合、4,000m離れた所に夜間、巣を移動したら、翌日、標高約100mの山を越えて30匹ばかりがもとの巣の所に戻ったものもある。波賀町の深い長い谷間では6,000mも蜜を集めに行ったハチもある。

これらの調査はハチの背に色のラッカーで点をつけ、そのつける位置で背番号の代りをさせ、行動を追跡するのである。この方法を使用して私は、スズメバチの行動半径を調べたことがある。これは大きいので、印刷された小さな活字を、切り抜いてラッカーで、背にはりつけて背番号とした。この大きなハチは9月と10月にミツバチの巣を襲撃してくる。数匹のスズメバチに襲われると2~3万匹のミツバチの一群も、1時間とたたない間に全滅させられる。蜂飼いにとっては大害虫なのである。ミツバチの巣の前に飛んで来るスズメバチを1匹1匹網で捕え、背番号をつけ、籠に入れ餌を与えておく、すべてピンセット作業なのだが、危険な作業である。時々刺された事もある。これを2、30匹集まった所で、夕方籠から1匹1匹放して、行く方向を追跡するのである。この実施方法は又別の機会にのべる事にするが、大体10匹あればこのギャングの巣を発見するのが出来る。

ことわっておくが、この大きなスズメバチの巣は大抵土の中にある。お宮やお寺の軒下にある丸いボール状の巣を作るハチはキイロスズメバチで、この方は前者より体は小さいし、ミツバチの巣の中に侵入して来たり、全滅させたりすることはない。私の約10年にわたる調査で、この2種のハチの行動半径は約1,000m、で、1,200mでは殆んど行動半径外であることを知った。一番身近かなアシナガバチやトクリバチの類、それに蟻などは、不勉強でどの位遠くまで行動するのか知らない。前回のべたウツギノヒメハナバチの行動半径はまだ判明してないようである。

其の他でよく調べられているものにマメコバチがある。これは青森県や長野県のリンゴ農場で花粉媒介に利用されるハチで葎の筒に巣を作り、花粉を集めてダンゴにして幼虫の餌にするのである。私の周辺にいるし、私が飼っているシロオビツツハナバチやイマイツツハナバチと同じツツハナバチの仲間、習性もよく似ている。このマメコバチの行動半径は調査では4~50mと意外に少なく、500mの所で放ったものは帰巢しなかったとある。

ジュニアの皆様、夏休みの研究にこの方法でハチの行動半径を調べられては如何でしょう。

(S. 06: 神崎郡福岡町)

上月町円光寺のシルビアシジミ

木村 三郎

1976年10月10日、秋里川下流の堤防を5年ぶりに調査することが出来たが、9月の台風の水害により手ひどく痛めつけられ、食草であるミヤコグサが所々しか確認出来ない程砂をかぶっていた。

さいわい成虫期の為、全滅はまぬがれていたが、個体数は相当減っている様に思われた。

当日シルビアシジミは成虫2♂と12卵、2若令幼虫を確認したにとどまった。

なお、同日このほかにムラサキシジミ1♂、アカタテハ1ex、ルリタテハ1♀、キタテハ1♂を採集し、ヤマトシジミ、ルリウラナミシジミ、キチヨウなどを目撃した。

(S. 03: 飾磨郡夢前町)

飼育中のツマグロヒョウモン

木村 三郎

1976年5月から累代飼育しているツマグロヒョウモンの内、11月に羽化した第4化の1♂と4代目の蛹4つが1977年1月4日現在も無事越冬しそうなくらい元気？でがんばっています。いままで本種の越冬は本州では気温の低下とともに死滅すると報告されていたのでとりあえず発表させていただきます。

(飼育室温度)	2.0°C~15.0°C	=1976, 12. 1~12.10
"	0.5°C~12.5°C	1976, 12.11~12.20
"	-2.5°C~12.0°C	1976, 12.21~12.31
"	-2.5°C~ 6.0°C	1977, 1. 1~ 1. 4

(S. 03: 飾磨郡夢前町)

甲山ふもとでアサギマダラを目撃

法西 定雄

10月10日(晴)。西宮市民の有志が行なっている早朝甲山登山会に出席して、甲山大師の境内に集まって朝の体操をしていたとき、頭上を東から西へヒラヒラ飛ぶものがある。なんだろう。アサギマダラであった。時間は午前7時半。長い間、西宮市の甲山の下、甲東園に住んでいるが、アサギマダラをはじめて見た。はなはだ不勉強で恥づかしいことである。"灯台もと暗し"の諺どおり、やれ北海道、信州と遠方まで出かけるが、肝心の地元、西宮の昆虫相については余り分っていない。

私も齢をとって足腰が弱ってきて、遠い道を歩くことが困難になっている。この際、遠征する回数を減らして、もっと近くの地元の昆虫を調べたい。

(西宮市)